



2024.

2.2.Fri.

17:30 ~ 19:30 (17:00~開場)
びわ湖大津プリンスホテル プリンズホール
定員：500名 (定員になり次第締め切らせていただきます)

近江ヒストリア講座

磯田道史講演会

in OTSU

世界遺産登録は地方創
生と深く関わっています。

「シビックプライド」はも
ちろん、世界遺産登録に
よって、国内外から一度は
訪れたい都市のひとつと
して多くの観光客が訪れ
る可能性があります。

滋賀県は日本一大きな
淡水湖(琵琶湖)に育まれ
た日本文化と仏教の発祥
の地です。彦根城の世界
遺産登録には、県市が一
丸となる広域連携が必須
です。

本講演は、世界遺産登
録推進のための機運醸成
を目的として実施します。
世界遺産「比叡山延暦寺」
や瀬田の唐橋、大津城と
彦根城など、時空を越えて
歴史学者磯田道史先生の
ご講演、旭堂南海師の講談
をお楽しみください。

●磯田道史氏 プロフィール

1970年、岡山市生まれ。慶応義塾大学、慶
応義塾大学院卒。茨城大学助教授、静岡文
化芸術大学教授を経て、現在、国際日本文化
研究センター教授。初著『武士の家計簿』で
新潮ドキュメント賞を受賞し映画化。『無私の
日本人』の一編「穀田屋十三郎」も「殿、利息
でござる!」として映画になっている。『近世
大名家臣団の社会構造』で博士(史学)。東
日本大震災後に『天災から日本史を読みな
おす』を、コロナ禍中は『感染症の日本史』を
書き、歴史を社会に活かす試みを続けている。
NHK大河ドラマ「西郷どん」を監修し、
京都市長役で出演。歴史番組「英雄たちの
選択」の司会でも知られる。近著は『日本史
を暴く』、『徳川家康 弱者の戦略』。



講演
「天津と関ヶ原合戦を語る」



講談「瀬田の唐橋異聞」 旭堂南海

●旭堂南海師プロフィール

1964年 兵庫県加古川市生まれ。1989年 三代目旭堂南陵に弟子入
り。1998年 咲くやこの花賞受賞。講談の本道「続き読み」の『太閤記』
(全76巻)、『関ヶ原軍記』(全34巻)、『難波戦記』(全40巻)を収録し、
CD販売とYouTubeにて公開。

お申し込みはWeb特設ページからお願いします。
<https://mirai-pro.com/ohmi-monogatari/>



Web特設ページ



Hikone Castle Town
彦根城を世界遺産に

主催 大津商工会議所・彦根商工会議所・世界遺産でつながるまちづくりコンソーシアム
事務局 彦根商工会議所 (tel.0749-22-4551)

どうなる彦根城の世界文化遺産登録!?

事前評価制度の導入後のスケジュール



2023.9.15

事前評価申請



2024.10.1 (事前評価結果開示)

事前評価結果受理

約1年半

既存プロセス

2025.9.30

推薦書暫定版提出

2026.1.30

推薦書正式版提出



2027.9

諮問機関の勧告

最低1年半空ける

約1年半

世界遺産委員会審議

登録まで少なくとも所要約4年。
事前評価の結果によっては推薦しない場合もある。

令和5年度

文化審議会が彦根城に関して示した課題

1. 物証に基づいた具体的な記述を加え、「彦根城」が近世日本の統治体制を表わす城郭であることの説明をより深めること。(価値に関する課題)
2. 近世城郭が約180存在した中で、主張する価値に照らし、なぜ「彦根城」がその代表となるのかについて、さらに明確に説明すること。(価値に関する課題)
3. 暫定一覧表記載が長期間を経ていることから、世界遺産委員会の諮問機関であるイコモスとの対話を通じて、顕著な普遍的価値を更に明確化すること。(価値に関する課題)

事前評価制度について

2023年7月4日、彦根城世界遺産登録について、ユネスコの諮問機関が事前に関与して助言する「事前評価」を活用して登録を目指すとして政府の発表がありました。

これまでは、各国が国内の暫定リストの中から推薦準備ができたものについて推薦書を作成し、ユネスコの世界遺産センターへ提出、イコモスという諮問機関の調査を経て世界遺産委員会で審議されるというものでした。今回、彦根城が受ける事前評価制度は、自国の世界遺産暫定一覧表記載資産の世界遺産登録をめざす締結国が、推薦書の本提出前に、顕著な普遍的価値などについて諮問機関（イコモスなど）より技術的・専門的助言を受けるといった制度です。

事前評価制度により、彦根城の世界遺産登録は推薦書の不備がないよう事前に問題点を洗い出し、それをクリアした上で提出が可能となります。前向きに考えると、確実に推薦書の提出が可能なルールに乗る事ができたともいえます。

今後の課題について

世界遺産に登録されるためには、その資産の「顕著な普遍的価値」が認められる必要があります。今回文化審議会より示された彦根城のクリアすべき今後の課題は、「より深める」「さらに明確にする」等基本的な方針から、さらなる工夫を加える——というものでした。令和3年度に示された課題と比べると、保存管理に関する課題、機運醸成・持続可能なまちづくりに関する課題が削除され、一定の

ところまでクリアできたと考えられます。

滋賀県の未来のために

彦根城の世界遺産登録はゴールではありません。滋賀県は、世界遺産「比叡山延暦寺」を代表とする文化遺産、恵まれた自然環境、日本の中心位置など、他都市にはない大きなアドバンテージを多く持つ歴史都市です。

世界遺産登録は大きな地域活性化の起爆剤となります。

大津商工会議所、彦根商工会議所ならびに、世界遺産でつながるまちづくりコンソーシアムは、関連団体と協働しながら、滋賀県の歴史を深耕し、県市一丸となりシビックプライドを育み、さらなる登録への機運の醸成を図りたいと考えております。どうぞ、ご協力をお願い申し上げます。



幾重にも積み重なった
近江の歴史を紡ぐ
Promotion website

